

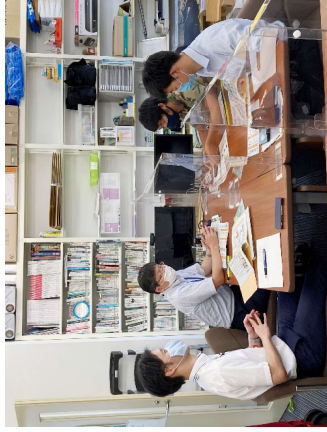
「スマホでみえ得キャンペーン」利用促進プロジェクト

三重県が行っている「答えてラッキー」スマホでみえ得キャンペーン」を使い、三重県により多くの観光客を呼び込み、三重の魅力を発信していくプロジェクトです。また、みえ得キャンペーンの普及も目的としています。私たち学生の視点で見た観光地の魅力や学生の意見を取り入れられることが求められています。

TEAM DATA
メンバー数：6名
活動場所：伊勢市
実施主体：三重県観光局観光魅力創造課
担当教員：池山 教（教育開発センター）
活動年度：R02

月別活動

- (8月) 初回ディスカッション
・みえ得キャンペーンについての説明
・ミーティング
・みえ得キャンペーンを実際に使ってみてどうだったか
- (9月) ミーティング
・みえ得キャンペーン方式変更後に使ってみてどうだったか
- (10月) ミーティング
・みえ得キャンペーンの利用データなどについて
- (11月) ミーティング
・メルマガ作成について



1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

新型コロナウイルスの影響があり、ミーティング中心の活動となった。スマホでみえ得キャンペーンを実際に使用した際の、問題点や改善点を学生の視点から指摘を行うことや、みえ得キャンペーンの利用率向上や認知度向上をさせるためにはどうすればいいかについて話し合った。実際にキャンペーンを利用した際には、店による対応の違いやキャンペーンを実施しているアンケータにいくと言った問題が指摘された。回答するアンケータについては、おもてなし施設の場合では答えやすいと感じた。一方で案内所の場合には答えにくいアンケート内容であったので改善を提案した。認知度向上に関する議論では、鉄道駅や道の駅・サービスエリア、ホテルなど観光客が多く利用する場所に設置するのがよいのではないかと言う意見が出た。また、コロナウイルスの三重県の観光に対する影響や三重県が行っている新たな観光キャンペーンについてお聞きした。共有していたデータや、話し合いを参考に学生の視点によるみえ得キャンペーンを組み込んだ三重県の観光地を巡るモデルコース作成を目標として活動していたが、実際にメルマガを配信することはできなく下書きを作成する段階でコロナウイルスの感染者増加により作業が中断した。

活動を通しての課題は、コロナウイルス影響で実際に現地に行っていた活動やメルマガ作成が途中で中断したことが非常に残念であった。観光の現状についてはミーティングだけでは分からないことも多く、みえ得キャンペーンについても実施している店舗や場所などに行き直接聞き取りを行い問題点などを議論すれば、より良いミーティングにつながったのではないかと考える。

活動を通して学んだこと

「スマホでみえ得キャンペーン」や三重県が行っている観光への施策などの取り組みについて、県庁の方から実際に伺うことができた。みえ得キャンペーンのおもてなし施設を私たちが調査のため観光地や食べ物についての魅力を発見できた。メルマガ作成の過程で、観光地の魅力をどのように伝えていくかなど魅力の発信方法について、どういった視点で伝えるか、ターゲットは誰かなどを考えながら行うなど、情報発信の仕方についても学ぶことができた。

実施主体からのコメント

三重県観光局観光魅力創造課 ご担当者様

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動の幅が制限された中でも、「スマホでみえ得キャンペーン」の課題や利用促進について、着実に検討を進めていただきました。

特に、学生から出されるアイデアは、学生視点の面白さや斬新さがあり、貴重な気づきを得られました。

ただ、このような状況で学生主体の取組を進められなかったことが残念でした。

担当教員より

教育開発センター 池山 教

三重県にとっても主要産業である観光業。その中でも伊勢志摩地域は大きな観光地となっています。この観光業は、今回のコロナウイルスの感染拡大で大きな影響を受けてもいます。その中にあり、県としての観光業の振興施策に学生が関わらせていただけたことはとても学びが多いと考えています。今後の観光業の「復興」と言ってもいいと思いますが、そのプロセスでも引き継ぎ学ばせていただければと思います。

